# JAWS DAYS 2015 HackDay AWS 側構築ハンズオンテキスト

トラック3:機械学習



Document Version	0.1	Last Revision Data	2015.03.21

# 目次

1	イントロダクション	
1.1.	本書について	3
1.2.	利用するデバイス、アプリケーション、サービス	3
1.3.	ハンズオン手順	5
2. <i>A</i>	Amazon Kinesis の設定	6
3. <i>A</i>	Amazon Cognito の設定	8
4. <i>A</i>	Amazon Identity and Access Managementの設定	11
4.1.	Edison 用の Role 作成	11
5. 7	アプリケーション用 EC2 の作成、起動	14
6. <i>J</i>	ハンズオン環境の削除	17
6.1.	CloudFormation Stack の削除	17
6.2.	Cognito の Identity Pool 削除	17
6.3.	Kinesis のストリーム削除	17
6.4.	IAM Role、Policy の削除	17

# 1. イントロダクション

# 1.1. 本書について

本書は JAWS DAYS 2015 HackDay のトラック3「機械学習」の AWS を用いたシステム構築部分のハンズオン手順について記述しております。

# 1.2. 利用するデバイス、アプリケーション、サービス

#### Amazon EC2(Elastic Compute Cloud)

Amazon Web Services が提供する、規模の変更が可能なコンピュータ処理能力をクラウド内で利用するウェブサービスです。

http://aws.amazon.com/jp/ec2/

#### Amazon Kinesis

大規模な分散データストリームをリアルタイムで処理するための完全管理型のクラウドベースのサービスです。センサーデータなど何十万ものソースから送られてくる大量のデータを連続的に取得し、格納します。本ハンズオンではデータ可視化のアプリケーションなどの動作環境として利用します。

http://aws.amazon.com/jp/kinesis/

#### Amazon Cognito

ユーザーアイデンティティおよびデータ同期に関する機能を提供するサービスです。いくつかのパブリックログインプロバイダ(Amazon、Facebook、Google)を通してユーザに一意のアイデンティティを作成でき、未承認のゲストをサポートすることも可能です。本ハンズオンでは Intel Edison からデータを Amazon Kinesis に格納する際の認証に利用します。

http://aws.amazon.com/jp/cognito/

### Intel Edison

インテル社が提供する開発用のシングルボードコンピュータです。本ハンズオンではセンサーからのデータ取得、Amazon Kinesis へのデータ送信に利用します。

http://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/do-it-yourself/edison.html

#### Grove スターターキット

Aruduino などの開発用ボードに接続可能なセンサーやケーブルが同梱されたキット。本ハンズオンではスターターキットの中のセンサーを選んで Intel Edison に接続し、センサーデータを取得します。

http://www.seeedstudio.com/document/Grove%20Starter%20Kit.pdf

http://www.seeedstudio.com/wiki/GROVE\_System

# Sedue for BigData

株式会社 Preferred Infrastructure が提供する、リアルタイム大規模データ分析基盤です。本ハンズオンでは、センサーデータを分析する際に使用します。

https://preferred.jp/product/sfbd

# Sedue Predictor

株式会社 Preferred Infrastructure が提供する、機械学習に必要な学習データを効果的・効率的に管理 し、機械学習によるデータ分析を協力にサポートするオンライン機械学習プラットフォームです。本ハンズオンではセンサーデータを機械学習を使って分類する際に使用します。

https://preferred.jp/product/predictor

# 1.3. ハンズオン手順

本ハンズオンは以下の手順に沿って進めます。

### ①Amazon Kinesis の設定

Intel Edison で取得されたセンサーデータを取得、格納するためのストリーム を作成します。

# ②Amazon Cognito の設定

Intel Edison に対して Kinesis へのデータ put を許可するために Cognito による認証を設定します。

# ③Amazon Identity and Management の設定

AWS の各リソースを利用するための権限設定を行います。

#### ④アプリケーション用 EC2 インスタンスの起動

アプリケーションが稼働する EC2 インスタンスをハンズオン用 AMI から起動します。

#### ⑤Intel Edison の設定

Intel Edison にセンサーを接続し、Kinesis ヘセンサーデータを上げるための設定を行います。

#### ⑥アプリケーションの実行

実際に Intel Edison からセンサーデータを Kinesis に送信し、アプリケーション上でデータが可視化できることを確認します。

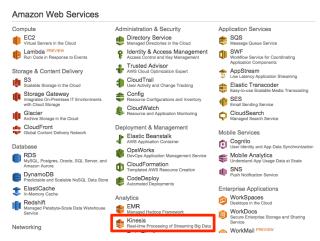
# 2. Amazon Kinesis の設定

Intel Edison からのデータをリアルタイムに受信するために、Amazon Kinesis の Stream を作成します。

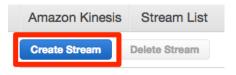
AWS マネージメントコンソールヘログインし、画面右上のメニューから東京リージョンを選択します。



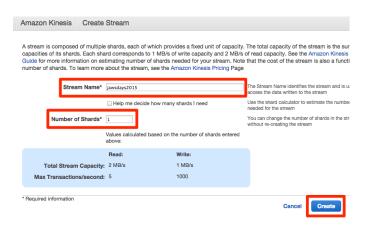
#### サービス一覧から"Kinesis"をクリックします。



"Create Stream"をクリックします。(Getting Started が表示される場合はそちらをクリックします。)



"Stream Name"に"**(Edison の番号)**"、"Number of Shards"に"**1**"を入力し、"Create"をクリック します。



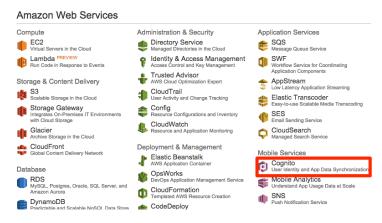
# リスト中に作成したストリームが表示されることを確認します。



# 3. Amazon Cognito の設定

Intel Edison の認証用に Cognito を設定します。

AWS マネージメントコンソールのサービス一覧から"Cognito"を選択します。



[Region Unsupported]の画面が出る場合は"US East(N.Virginia)"をクリックしてください。

# Region Unsupported Cognito is not available in Asia Pacific (Tokyo). Please select another region. Supported Regions US East (N. Virginia) EU (Ireland)

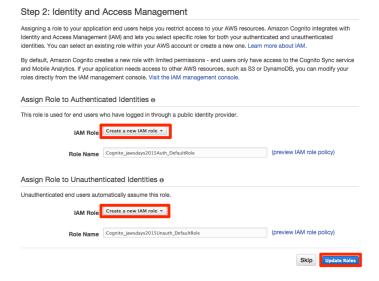
"New Identity Pool"のボタンをクリックします。(Getting Started Now が表示される場合はそちらをクリックしてください)

# **New Identity Pool**

[Create New Identity Pool]画面で、"Identity Pool Name"に"**(Edison の番号)**"、
[Unauthenticated Identities]の"Enable Access to..."にチェックを入れ、"Create Pool"をクリックします。

# Create New Identity Pool Identity pools are used to store end user identities. To declare a new identity pool, enter a unique name. Identity Pool Name\* Jawsdays2015 € Example: My App Name ✓ Unauthenticated Identities ⑤ Amazon Cognito can support unauthenticated identities by providing a unique identifier and AWS credentials for users who do not authenticate with an identity provider. If your application allows users who do not log in, you can enable access for unauthenticated identities. Learn more: Android, IOS. Inable Access to Unauthenticated Identities ✓ Public Identity Providers ⑥ ✓ OpenID Connect Providers ⑥ ✓ Developer Authenticated Identities ⑥ Indicates a required field Create Pool Create Pool

[Step2: Identity and Access Management]の画面で[Assign Role to...]のドロップダウンメニューが"Create a new IAM role"であることを確認し、"Update Roles"をクリックします。



[Getting Started with Amazon Cognito]画面が表示されます。画面右上の"Edit Identity Pool"をクリックしてください。



## JAWS DAYS 2015 HackDay Track 3



[Edit Identity Pool]画面で"Identity Pool ID"に表示されている us-east-1:から始まる文字列をノートパッドなどにメモしてください。後に Edison の認証情報として利用します。



本手順によりリージョンが"N.Virginia"となっているため、"Tokyo"を選択してください。

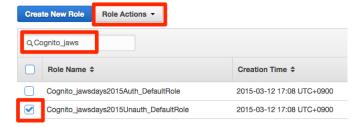
# 4. Amazon Identity and Access Management の設定

# 4.1. Edison 用の Role 作成

Edison の Cognito のゲスト認証用に割り当てる Role を設定します。Cognito の Identity Pool 作成時 にすでに Role が作成されているため、そちらの権限設定を行います。

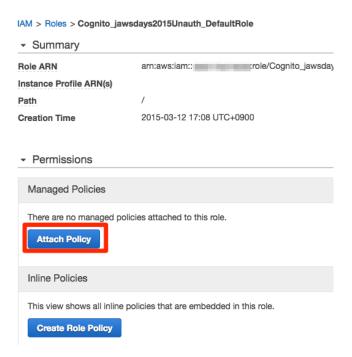


検索フォームに"Cognito\_jaws"と入力すると Cognito で作成した Role が表示されます。"Cognito\_jawsdays2015Unauth\_DefaultRole"をクリックします。

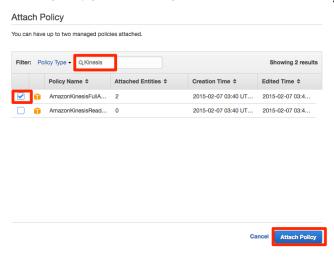


"Attach Policy"をクリックします。

Encryption Keys



[Attach Policy]画面で検索フォームに Kinesis と入力します。リスト中の"AmazonKinesisFullAccess" のチェックボックスにチェックを入れ、"Attach Policy"をクリックします。



Policy が設定されたことを確認します。



画面上の"Summary"に表示されている、Role ARN を控えます。後の手順で Intel Edison に設定します。

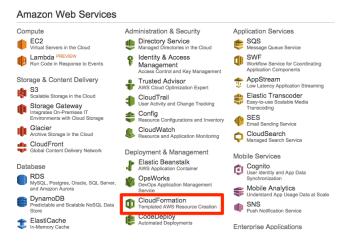
→ Summary				
Role ARN	arn:aws:iam::role/Cognito_jawsdays2015Unauth_DefaultRe	ole		
Instance Profile ARN(s)	•			
Path	/			
Creation Time	2015-03-12 17:08 UTC+0900			

# 5. アプリケーション用 EC2 の作成、起動

Kinesis アプリケーションが動作するための EC2 を起動します。今回は VPC などのネットワーク環境も同時に作成しますが、オペレーションを簡略化するために CloudFormation のテンプレートから作成することとします。

環境作成にあたり KeyPair が必要となりますので、[EC2]-[KeyPair]から作成して、KeyPair の名前を控えておいてください。

AWS マネージメントコンソールのサービス一覧から"CloudFormation"をクリックします。



"Create Stack"ボタンをクリックします。

# Create Stack

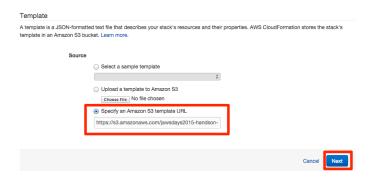
[Select Template]の画面で"Stack"の Name に"JAWSDAYS2015"と入力します。

Select Template	
Specify a stack name and then select the template that describes the stack that you want to create.	
Stack	
An AWS CloudFormation stack is a collection of related resources that you provision and update as a single unit.	
Name JAWSDAYS2015	

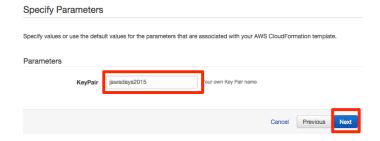
画面をスクロールし、[Template]の"Specify an Amazon S3 template URL"のボタンにチェックを入れ、以下の URL と入力します。

http://jaws-iot-handson-contents.s3-website-ap-northeast-

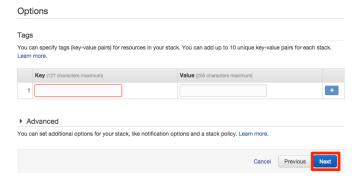
1.amazonaws.com/s3/jawsdays2015-session3.template



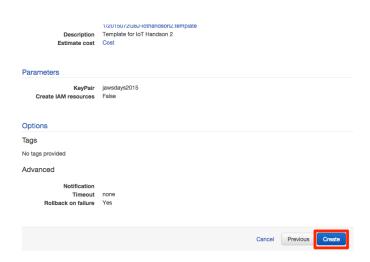
[Specify Parameters]の"KeyName"に EC2 インスタンスにログインに利用する KeyPair の名前を入力し、"Next"をクリックします。



[Tags]の画面で"Next"をクリックします。



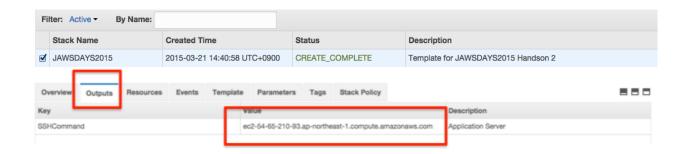
内容を確認し、"Create"をクリックします。



CloudFormation のスタックが作成中となります。しばらくお待ちください。



ステータスが"CREATE\_COMPLETE"となりましたら、 Output タブをクリックし、起動した EC2 インスタンスの Publich DNS 名を控えておきます。



# 6. ハンズオン環境の削除

ハンズオン終了後に今回利用した環境を削除してください。

# 6.1. CloudFormation Stack の削除

AWS マネージメントコンソールのサービス一覧から CloudFormation をクリックします。

Stack の一覧から"JAWSDAYS2015"をクリックし、"Delete Stack"をクリックします。

# 6.2. Cognito の Identity Pool 削除

AWS マネージメントコンソールのサービス一覧から Cognito をクリックします。

IdentityPool の一覧から"**jawsdays2015**"をクリックします。画面右上の"Edit Identity Pool"をクリックします。

画面下の"Delete Identity Pool"メニューをクリックし、"Delete Identity Pool"をクリックします。

# 6.3. Kinesis のストリーム削除

AWS マネージメントコンソールのサービス一覧から Kinesis をクリックします。

ストリームの一覧から"jawsdays2015"をクリックし、画面上部の"Delete Stream"をクリックします。

# 6.4. IAM Role、Policy の削除

AWS マネージメントコンソールのサービス一覧から"Identity and Access Management" をクリックします。

画面左のメニューから"Role"をクリックします。以下の2つの Role をリストから選択し、画面上部の"Role Action"から"Delete Role"をクリックします。

"Cognito jawsdays2015Auth DefaultRole"

"Cognito jawsdays2015Unauth DefaultRole"

画面左のメニューから"Policies"をクリックします。リストから"jawsdays2015\_ec2\_policy"をクリックし、画面上部の"Policy Actions"から"Delete"をクリックします。